中国景徳鎮市への派遣事業　報告書

学校名：愛知県立瀬戸西高等学校

本事業への参加を希望した理由・きっかけ
・中国への興味があったため ・英語を実用する機会が欲しかったため ・宗教や大仏がシルクロードを通じてどのように変化するのか気になり中国の寺院に行きたかったため。
実際に訪問して学んだこと、得たこと、感想など
博物館を見学して、陶磁器に関する知識を学ぶことができた。 例えば塗料は時代によって変化しており現代に近づく程鉱石などの有機物を使用しない系統のものを原料とした塗料になっていた。 また、装飾として描かれていた龍のような空想上の生物も時代によってその姿を変えており最初の時代では災いとイメージされていたのが不細工で恐ろしく描かれていたのだが時代が進み、龍に対して信仰心を持つ人々が現れるにつれて荘厳で華麗になっていた。 そして中国の陶磁器の中にはシンメトリーをもたないものも多く、時代によって評価する点にも変化があるのではないかと考察した。 中国の窯業学校に飾られていた生徒の作品からは日本、特にアニメーションの影響を強く見うけることができた。 中国における人物画のほとんどは一重のまぶたをもっているが飾られていた作品のまぶたはほとんどが二重であり、黒目の強調やハイライトから日本のマンガやアニメの印象を受けた。 文化大国である中国の芸術や文化も時代や地域によってさまざまで、他国から影響を受け、他国に影響を与えているのだと理解した。 また次回中国に行くことがあれば、南昌以外の地域で文化にどのような違いがあるのか知りたくなった。 また行くことができればと思う。

※不足する場合は裏面に書いてください

中国景徳鎮市への派遣事業　報告書

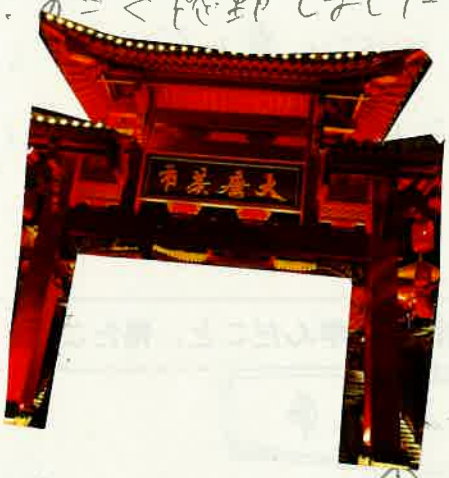
学校名：愛知県立瀬戸西高校

本事業への参加を希望した理由・きっかけ
・日本じゃない違う国の人と交流して自分の価値観が変わるのか知りたかった　・違う国の人に瀬戸を知ってほしかったから。

実際に訪問して学んだこと、得たこと、感想など
印象に残った事 ①ろくろ・絵付け体験　②「大唐芸市」観賞 ③ホテルでのごはん。 ① ろくろ・絵付けは瀬戸でもやった事があります。ここで一番おどろいたのは、中国の大学の生徒さんです。日本語を勉強していて、簡単な日本語が話せました。体験中、中国の先生と私たちの通訳をしてくれたり、世間話をしたりなど、日本語でたくさん会話しました。とても楽しい時間で、また機会があったらお話ししたいです。   ろくろ作り上手でした！また行きたい！！

※不足する場合は裏面に書いてください

②「大唐芙蓉市」というパフォーマンスを見ました。始めは、仮装をしている人達がいるだけで、何が始まるかわからず困惑していましたが、時間になり、音楽が始まると、仮装していた人達がアクロバティックをしたり、歌、とおどりとすごくキレイでした。そして屋外で移動しながら見る演出だったので、今まで経験したことないものだったので、すごく感動しました。町並みもすごくきれいでした。



③ 中国の料理はすごく辛いよと聞いていたので食べれるかとても不安だったけど、出てきたものは、辛いのが多かったのですが、その中で1番おいしかったのが、肉を煮た角煮みたいな料理がおいしすぎてごはん何杯も食べれました。おいしかったです

辛すぎて食べるのギブアップ。

最後に…

中国という国は偏見もすごく多い国で、行く前は少しいや配もありました。ですが行ってみると、現地の人はみんな優しく、市場で、何円か分からず困っていると近くにいた英語を話せる中国人の方が助けてくれたり、「日本人です」と中国語でいうと、手で何円かを表してくれたりなど親切な方が多く、帰りに謝謝というと笑顔で、返してくれたりいろんな事をしてくれました。偏見もあり悪く見られがちな所もありますが、私は今回の訪問で中国の印象がだいぶかわりました。また行けるとなれば絶対に行きたいです。とても楽しい1週間でした。

中国景徳鎮市への派遣事業　報告書

学校名：愛知県立瀬戸西高等学校

本事業への参加を希望した理由・きっかけ

・世界の文化に目を向け、より言語の理解を深めるため。

きっかけは英会話の先生。帰国子女だったので、アメリカで過ごした時の体験談をよく聞かせてくれた。現地に行ってみないと分からない風習や文化があることを知り、実際に外国に行ってみたいという気持ちが強くなった。将来教師になったとき、私も生徒に経験談を話して、多くの人に言語を学ぶ楽しさや世界に視野をひろげられる新しい価値観を教えたい。

実際に訪問して学んだこと、得たこと、感想など

現地の大学生との交流や様々な場所への視察などを通じて、自分が映画やSNSで想像していた中国との共通点や相異点に驚いたこと、おもしろかったこと、新たな発見がありました。又、私の中国人の友達が住んでいた地域と私達が訪れた景徳鎮・南昌にも文化の違いもありました。今回私が得た経験は大きく、貴重なものでとても為になりました。
この事業に関わってくださった皆様に心の底から感謝いたします。ありがとうございました。

◎陶磁器の市場、高嶺・中国村にて。

←お店の壁のペイントが中国っぽい

・日本のアニメが描かれているものも!!（他：ドラエモン、サンリオ、ちびまるこちゃん etc）

☆ショックで写真を撮り忘れた…日本と違った所
お店の近くの壁にあったトトロのイラスト

メイちゃん＋サツキちゃん
÷2みたいな女の子?!
何だコレ!?
↳ サツキとメイの初期デザイン
調べると

◎中国にはアニメ内容が規制で変えられてしまい…日本と同じ内容が知りたくなった。
・新海誠作品など、日本のアニメはけっこう人気であるのを知れた。

※不足する場合は裏面に書いてください

← お花が磁器!!
店の人がおまけで4本ほどくれました。

安い買い物で「おまけ10本ちょうだい?」と言ったおばさんに驚きました…。

↑ 陶器の花瓶 表面ザラザラ

豆 中国は電子マネー文化

・WeChat(日本でいうLINE)でQRをよみこみ、支払い時にパスワードを入力して支払いが完了する。
クレジットカードと連携させる

出店ではほとんどが電子だけ!!

小話 電子マネーが使えない!? パスワードが分からない時に苦労した話

出店で買えなかった時はとても焦りました。
(親切なおじさんが「これおまけでいいよ」とおもちゃの入ったごまだんごをくれました)
パスワードの変え方が調べても分からなかったので苦労していた所。
どうやらWeChatの更新が多すぎてネットに載ってなかったようです。
感謝 現地の友達に聞いて手伝ってもらい最終日にやっと使えるようになりました。

◎中国村。
昔の陶磁器が栄えた場所。形はそのまま残り、今では観光スポットとなっている。
ガラスビーズのブレスレットなどをよくみかけた。

◎上に唐傘などの飾りがつりさげられている
赤や黄など中国の伝統色が多い。

◎食文化

まるごと鳥のいがいづつみ

すいか メロン トマト

北京ダック たべやすかった

とある日の朝ごはん

◦肉・すっぱい・骨はそのまま!

◦味…牛骨・鳥の出汁
ともも美味(特にスープ)

◦生の野菜・魚を食べる文化はあまりない。炒め物、煮魚が主
(地域によっては魚を食べない)

◦皿の上に皿を置く
たくさんおもてなしして下さいました。

◦ジュースは常温!水はペットボトルのものが主流(体をこわす為)

◦スイカ、メロンが定番フルーツ!

◦思ったより辛い!
どれが辛くないかは食べてみないと分からない(けどおいしい)
ピーマンかと思って食べたら青唐辛子だったりしましたが地域によっても穏やかで食べやすいものもあり。

◦朝ごはんはおかゆ or ラーメン
・おかゆは味なし。ザーサイなどの漬物やおかずといただく。
ラーメンは日本よりも味がうすい。
これらは日本でいう白米の役割になっていた。

← いちごプリンの上にトマト!?
トマトも果物に入るそうです。
以外に合う(個人の感想です)

◎現地の大学生との交流

・南昌にて、
青少年交流会では、それぞれが出し物をしました。
私たちはソーラン節を踊りました。

舞台裏で練習していた時、
「僕達日本大好きなんだ！写真とっていいよ」と
声をかけてくださり、友達になりました！連絡先を交換し、
今でも会話していますが、日本語や日本の文化を教えたり、
逆に中国語や、まだ知らない中国文化を教えてもらっています。

・景德鎮陶磁大学
ろくろ体験、絵つけ体験をしました！
ろくろは初めてで、広げるのが上手くいきませんでした…。

展示されていた学生達の作品は陶磁器も絵画も細やかで美しい物ばかりでした。

◎地域で異なる！学科、カリキュラムの違い。
南昌や景德鎮 → 日本語学科　日本語の授業を受ける大学が多い
上海 → 英語学科　主に英語を学べる大学が多い
※中国で英語を話せる人は金もちでエリートの人

☆今回学べたこと『相互理解の大切さ』
初日の対話式で様々な国との間で解決していない問題が多くあり、それらを解決するには『互いに話し合う』ことが大切だと学んだ

Q. なぜ問題が無くならないのか → A. それぞれの国に固定概念がある

互いから見た偏見・SNSでは互いの国の一部しか見えない → 悪い所ばかりみてしまう

例
※一部の人が感じているであろうものを個人的に解釈した物でそれが全てではない

中国 → 日本
・昔日本は攻めてきた野蛮人が多そうだ
・日本技術は中国より劣っている。

日本 → 中国
・怖い人多そう
土産を買ったとき、とまどうだろうなっていた → 中国の食べ物は信用がない
・粗悪品ばかりだ

実際　どちらの国もいい人ばかり
中国
・食べ物の粗悪品はほとんどない ⇒
日本　車や小さな部品の頑丈さは世界でも信頼されている

決めつけず、互いを尊重し、互いの文化を知り、その上で互いに納得できる所を話し合うのが問題解決の第一歩

中国景徳鎮市への派遣事業　報告書

学校名：愛知県立瀬戸西高等学校

本事業への参加を希望した理由・きっかけ
中国と日本の文化や食の違いだけでなく、共通点について学びたいと思い参加を希望しました。
実際に訪問して学んだこと、得たこと、感想など
実際に行ってみて、様々な違い、共通点を見つけられました。走っている車や建物、売っている物など見る景色どこを見ても文化の違いを感じ、常に新鮮な気持ちでした。食文化もニンニク料理や唐辛子の料理が多く、ほとんどの料理が辛いものばかりでした。一番おいしかった料理は"すぺん"で、特に甲の(手)この骨の近くがおいしかったです。テーブルのみんなで回して食べて、"おいしい"を共有して楽しく食事ができました。その日が二日目だったのですが、その食事を境に一気に仲が深まり、とてもいい思い出ができました。自分では行く機会のあまりない中国へ行くことができ充実した七日間を過ごすことができました。

※不足する場合は裏面に書いてください

中国へ行った際、「電気自動車」が多いなととても感じました。中でもワーゲンの電気自動車が多く、経済が発達しているのだなと感じました。高級車が数多く走っていることに疑問を感じたので日本へ帰ってきて調べてみたら、中国では"信用というものを判定する一つの目安"であるということがわかりました。そして、北京である分野で商売しようとすると、ベンツかBMWに乗っていないと相手にしてもらえないという情報も知りました。そのため、無理をしてでも高級車を買い、残ったお金で生活をするらしいです。南昌や北京に特に高級車が多かった理由がわかりました。さらに、中国では3台に1台が電気自動車らしいです。2021年には325万台、2022年には590万台、2023年は810万台と電気自動車販売台数に著しい伸びを見せています。その背景には、政府の対策として、新エネルギー車購入時の補助金政策などの対策がされていることがあります。その原因には、排気ガス問題や地球温暖化などがあり、日本の近い未来も電気自動車がここまで普及するときがくるのかなと思いました。私が車を運転する未来も遠くはないので、未来を見越して、車を購入する際は、電気自動車も視野に入れていきたいと思います。

景徳鎮市友好都市交流事業　生徒引率を通して　　愛知県立瀬戸西高等学校

＜全体的な日程について＞

多くのプログラムが用意され、大変有意義な１週間を過ごすことができた。南昌で参加した国際都市ユースリーダシップ対話イベントや交流会への参加は、生徒だけでなく私自身も大変良い経験となった。スピーチでは、中国語講座で学んだ中国語の自己紹介を披露することができた（うまく発音できていたかは自信がないが）、またタ食会で、名刺交換する機会があり、生徒だけでなく引率者も交流する機会があり、良い緊張感を持って楽しむことができた。

ＶＲ(virtual Reality)が体験できる博物館では、中国ではこんなに気軽に体験できる機会があることに少し驚いた。日本では、ユニバーサルスタジオジャパンのような大掛かりな乗り物で使用するイメージしかなかったからだ。宿泊したホテルや食事も本当に良かった。毎食、食べきれないほどの品数と量が出され、食事を大切にする中国文化を体験することができた。景徳鎮陶磁技術師学院視察では、日本語を学ぶ学生たちと日本語でクイズを楽しみ、その後は、絵付けやロクロ体験など学生たちと共に一生懸命集中して、ときには楽しく学ぶ生徒の姿が見られた。陶磁器関係の博物館視察が多かった中で、「大唐茶市」実演演出鑑賞は、大変印象深く、中国語が分からなくても楽しむことができた。

＜現地での生徒の様子＞

今回の派遣事業のプログラムにみな大変意欲的に参加していた。特に、印象的だったのは、とにかく現地の方とコミュニケーションを取ろうという意欲の高さである。事前の中国語講座で学んだことも大変役立っていたと思うが、スマートフォンを駆使して、写真を撮り合い、ＳＮＳ等を活用して意思疎通する姿が多くみられた。他の地域の団体が日本人らしく控えめに交流する一方で、瀬戸市高校生が率先して交流していたのが本当に印象的である。交流会での出し物（ソーラン節、日本クイズ）も大変良かった。法被を着て、本番前に練習をしていると、写真撮影を多く求められ、みな嬉しそうにしていた。交流会後、一番最後まで会場に残って現地の学生たちとやりとりしていた団体は、瀬戸市だった。ちなみに、交流会は多くの出し物が用意され、終了したのは２３時頃だったと思うが、瀬戸市高校生は本当に元気に楽しく、積極的に参加していた。

陶磁器の勉強に関しては、瀬戸市民だからこそ、瀬戸にある高校に通う高校生だからこそ、この派遣事業での体験を存分に生かして、今後も勉強してほしいと思う。

＜感想＞

特に大きな問題もなく無事に終えられたのは、中国（江西省・景徳鎮市）アテンドのみなさんの細やかな心遣いのおかげである。天候や私たちの要望を聞いて、スケジュールを微調整してくれたり、（誕生日に長寿を願って麺を食べる食習慣があるそうで）誕生日の生徒に、サプライズで「長寿麺」を用意してくれたり、生徒が市場の屋台で食べられなかった料理があったことを知ると、昼食に追加でその料理を用意してくれるなど、中国の「おもてなし」に感心した。これまでの姉妹都市として約３０年間の友好交流の積み重ねがあるからでこそであり、瀬戸市の交流担当の方々が中国の担当の方々と本当に良い関係が築けているのだと感じられる交流事業だった。

私たちの多くは、これまで「近くて遠い中国」と感じていたと思うが、実際に中国を訪れ、かなり印象が変わったのは間違いない。高校生にこのような素晴らしい機会を与えていただいたことは高校の教員として大変ありがたく思う。今後もこうした派遣事業が末永く続くことを願う。